

単元名（教材名）

文章の要旨をとらえ、自分の考えを發表しよう。

（光村図書『国語 五 銀河』「言葉の意味が分かること」）

本時の目標

事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。
〔思考力、判断力、表現力等 C「読むこと」(1)ア〕

読解力向上プランVer. 2における指導のポイント

⑭複数の段落で構成された文章を200字程度でまとめさせる。

	学習活動	指導上の工夫
導入	○「要旨」の言葉の意味を確認し、授業の見通しをもつ。	
展開	○筆者の考えを箇条書きで書く。 ☆文章の要旨を150字でまとめる。	・段落⑪⑫で、筆者の考えが述べられている文を見付け箇条書きにさせる。 ・必要な文や言葉を丸で囲み、つなげて要旨をまとめさせる。
まとめ	○要旨を書くときに、事例から分かる筆者の考えを関係付けてまとめることができたかを確認、振り返りをする。	

☆対話例☆

（文章の要旨を150字でまとめる活動場面）

T：筆者の考えの中心を表している文はどれですか。

C：『つまり、母語でも外国語でも、言葉を学んでいくときには、言葉の意味を「面」として理解することが大切になるのです。』の文です。

C：ぼくもそう思う。「つまり」という言葉は、「言いかえると」とか「結局」という意味があるから、筆者の考えの中心の文になっていると思う。段落⑫の最後にも、「言葉の意味は面である」と書いてあるよ。

C：「面」という言葉が何度も出てくるよ。「面」はキーワードになっているんじゃないかな。

T：言葉の意味を「面」として理解するために、何が必要なのでしょうか。

☆学習の流れ☆

- ①言葉の意味を「面」として理解することが、筆者の考えの中心になっていることを学級全体で理解させる。
- ②言葉の意味を「点」として考えているときを表している文を見付け、短くまとめさせる。
- ③本時までにはまとめた事例1と事例2の事柄について、言葉の意味を「点」として考えている内容を青色、「面」として考えている内容を赤色の丸で囲ませる。
- ④「点」と「面」の言葉を使い、要旨を150字以内でまとめさせる。



◇実践のポイント◇

要旨をまとめる際には、筆者が読み手に伝えたい考えの中心を捉えることが大切です。そのためには、筆者がどのような事実を事例として挙げているのかなどに着目して、原因と結果の関係を押さえて読む必要があります。文章の要旨をまとめるために必要な文や言葉を丸で囲んだり、箇条書きにして確認したりすることで、文章の構成を考えながら、自分で文章の要旨をまとめることができるようになります。

◇活用できる教材例◇

「想像力のスイッチを入れよう」光村図書『国語 五 銀河』

「動物たちが教えてくれる海の中の暮らし」東京書籍『新しい国語 五』

「言葉と事実」教育出版『ひろがる言葉 小学国語 五上』